

先日、1月20日は二十四節気の「大寒(だいかん)」。一年のうちで一番寒い時季です。でも、これから2月4日の「立春(りっしゅん)」に向けて、日はますます延びて、次第に春の気配がうっすら感じられるようになります。真冬を楽しむのも、もうちょっと。今回は、真冬の鳥たちの食べ物を観察してみましよう。

期待はずれ？の果実

冬に実る果実は、地面の近くにあるものが多いようです。背の高い木々は、冬の低温下ではせっかく枝先に実らせても凍ってしまったり、栄養や水分を充分に行き渡らせたりするのが難しいから、冬に実らせないのかもしれないかもしれません。さて、冬の果実は、鳥たちにとって貴重な食料となります。ただし、美味しそうに実っているわりに、中身はそれほど豪華ではありません。試しに、中身を割ってみましよう。



ヤブランの果実



マンリョウの果実

果実の中身 = 種子

冬は、少ない食べ物を必死になって探す鳥たちが、多少、栄養効率は悪くても、これらの果実を一生懸命に食べてくれます。多くの鳥は果実を丸のみして、果肉だけを消化し、種子は消化せずそのままフンとして排泄します。木々にとって果実の本体は種子ですから、



左) ヤブラン 右) マンリョウ

果肉は鳥へのオマケです。種子本体を鳥が体内に入れて運び、フンとして落とすのであれば果実の役割は完了します。じつは、果実のままでは、たとえ土の上に落ちてでも発芽しません。果肉が消化されて、未消化の種子がフンに混ざって落ちて初めて、発芽できるのです。果肉にそれほどご馳走を詰めなくても鳥が食べてくれる冬の果実は、大きめの種子を入れて、ほんの少しの果肉でも食べてくれる鳥たちに運ばせている、というわけなのです。

人気の高い果実は？

それでも、鳥たちもよく知っていて、果肉の多い、あるいは栄養価の高い種子から順に食べていきます。写真のヘクソカズラはどうでしょう？人間にはひどい名前をつけられているとおり、多くの人が悪臭と感じるに似ている植物です。でも、鳥たちはわりとよくこの果実を食べます。どんな中身なのか、割ってみましよう！答えは、果実の中にあります。



ヘクソカズラの果実

次回のお知らせ
ミニ観察会：2月22日(土)12時から
新聞No.35も観察会にあわせて発行します。